



**From  
the People of Japan**

## プロジェクト概要

### 第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラム 「危機に瀕する記録遺産のよりよい保存にかかる国際協力の強化」

(Enhancing International Cooperation to better Safeguard Documentary Heritage at Risk)

2022年11月21日(月)～22日(火)

(オンライン同時配信)

#### 1. はじめに

2022年11月21日～22日、ユネスコは、東京において、文部科学省の協力の下、ハイブリッド形式（対面とオンライン）にて第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムを開催します。

1992年に設立されたユネスコ「世界の記憶」(MoW)事業の目的は、

- 世界の記録遺産の保存を促進する
- 世界中の記録遺産への普遍的なアクセスを可能にする
- 記録遺産の重要性について、より多くの人々の認識を高める

ことにあります。

この目的を念頭に、「デジタル形式を含む記録遺産の保存とアクセスに関する勧告(2015)」を考慮し、ユネスコは日本信託基金（JFIT）協力事業の一環でこうした一連のフォーラムのコーディネートを開始しました。パリのユネスコ本部で開催された第1回、第2回の「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムの概要報告書をご覧いた

だとわかりますとおり、いずれも記録遺産に対する災害を食い止めるためのパートナーシップを構築することに焦点を当てたものとなっています。2021年9月にハイブリッド形式にて開催された第2回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムでは、記録遺産の持続可能な保存とアクセス容易性の確保のための世界的な戦略にかかる政策枠組みの明確化に向けた機運醸成を目的に、120か国900人にのぼる世界中の記憶機関や研究機関から参加した意思決定者や専門家等が参加しました。

このような過去のフォーラムでの成功を受け、第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムは、初めて日本（東京）で開催されることになりました。これは、文部科学省が共催者であり、かつ日本信託基金のドナーであるという、協力関係の深化を表しています。また、このフォーラムの開催は、「世界の記憶」事業の30周年を記念する、日本国内における祝賀イベントの一環でもあります。

## 2. フォーラムの目的

第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムの全体的テーマは「危機に瀕する記録遺産のよりよい保存にかかる国際協力の強化」です。

災害は、それが自然災害であれ人為的なものであれ、世界の記録遺産（古代の手稿から現代の行政文書、視聴覚資料に至るまで）を破壊する大きな要因となってきました。気候変動や感染症の流行、そして何よりも戦争、紛争、社会不安など、近年は様々な原因で自然災害や人為的災害のリスクが高まる一方となっています。記録遺産を失うことは、地域社会や国にとっての記憶や遺産だけでなく、人類全体の記憶や遺産を失うことを意味します。

この点を踏まえ、第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムは、以下を目指して開催します。

1. 既存の、また潜在的な国際協力メカニズムを活用し、危機に瀕した記録遺産の保護にかかる参加者の知識と理解を高めます。
2. 危機に瀕する記録遺産の効果的な保護に向けての国際協力の強化を目的とした、新たなイニシアチブ、プロジェクト、資金を示し、立ち上げます。
3. 危機に瀕する記録遺産を保護するための新たな国際的パートナーシップを強固なものにします。

### 3. フォーラムの構成

日	時間	内容	開催形式
第1日目 11月21日	午後 夜	視察 レセプション	対面にて参加する登壇者 及び招待者対象
第2日目 11月22日	終日	全体会議、テーマ別セッション、閉会	ハイブリッド形式

想定されるトピックは以下のとおりです。

- 国際協力のツールとしての政策開発
  - 緊急時の文化遺産保全にかかる主要な国際的イニシアチブの最新状況（例えば、ブルーシールドやハーグ条約<sup>1</sup>）
  - 記録遺産保護のための避難場所創設にかかる国際的イニシアチブ及びネットワーク
  - 緊急時の記録遺産保全にかかる国家的方針の策定
  - 気候変動・自然災害と記録遺産保護
- 国際協力促進のための実践的手法
  - 記憶機関のための早期警報システム、リスク評価、カスタマイズされた災害時計画
  - 武装紛争中の災害対応
  - 被災した記録遺産のレスキュー及び修復
  - 災害後の環境からの復旧
- 「世界の記憶」事業 30周年を祝う特別イベント

### 4. 開催形式及び参加者 **FORMAT AND PARTICIPANTS**

第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムは、世界中からより多様でより多くの方に参加いただけるよう、オンラインでのライブ配信を行うハイブリッド形式にて開催予定です。

以下の参加者を対象としています。

- 記憶機関（博物館、図書館、文書館等）の代表者
- 政策立案者及び加盟国（各国政府のユネスコ代表部、ユネスコ国内委員会、関連省庁等の職員）
- 記録遺産、危機に瀕する文化遺産、災害リスク軽減、その他関連分野の専門家
- 国際公文書館会議（ICA）、国際図書館連盟（IFLA）、視聴覚保存期間連絡

---

<sup>1</sup> [武力紛争の際の文化財の保護に関する条約（1954）](#)

協議会（CCAAA<sup>2</sup>）、国際博物館会議（ICOM<sup>3</sup>）、文化財保存修復研究国際センター（ICCROM<sup>4</sup>）、ブルーシールド等の主要な（「世界の記憶」事業における）国際的実施パートナー

- 「世界の記憶」アジア太平洋地域委員会（MOWCAP<sup>5</sup>）、「世界の記憶」ラテンアメリカ・カリブ海地域委員会（MOWLAC<sup>6</sup>）、「世界の記憶」アフリカ地域委員会（ARCMOW<sup>7</sup>）、及びユネスコ地域事務所
- 各国の「世界の記憶」ナショナル・コミッティ
- その他さまざまなステークホルダー（国際機関、研究機関、学会、NGO、メディア、民間企業等）

参加者は、それぞれの地域や国における関係者とのつながりを促進していく役割を担っていただけることが望めます。参加者数は、（開催時の）新型コロナウイルス感染症対応における制限状況にもよりますが、100名の対面による出席と、900名のオンライン参加者の、合計1000名を予定しています。ユネスコが招待した講演者がフォーラムに対面にて参加する場合に限り、ユネスコは旅費を負担します。オンライン参加は無料です。

ユネスコは、この国際的イベントの主催者として、会議内容の策定、イベント全体の運営及び渉外活動を率先して行います。文部科学省は、共催者として、会場、ネットワーク、広報活動などの日本国内における運営を行い、視察やレセプション、パネル展示など、フォーラムの構成の企画をサポートします。

## 5. 連絡先

皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。

英語によるお問合せ：[mowsecretariat@unesco.org](mailto:mowsecretariat@unesco.org)（ユネスコ「世界の記憶」事務局）

日本語によるお問合せ：[mow-secretariat@mext.go.jp](mailto:mow-secretariat@mext.go.jp)（文部科学省「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会事務局）

---

<sup>2</sup> The Co-ordinating Council of Audiovisual Archives Associations

<sup>3</sup> International Council of Museums

<sup>4</sup> The International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property

<sup>5</sup> The Memory of the World Committee for Asia and the Pacific

<sup>6</sup> UNESCO Memory of the World Register for Latin America and the Caribbean

<sup>7</sup> The African Regional Committee for Memory of the World